

施設園芸経営における 環境モニタリングデータの活用条件と指導のポイント

【概要】

- 1 成果の内容
県内外の施設園芸でのデータ活用の先進事例調査から、収益拡大を志す若手施設園芸生産者が環境モニタリング機器を活用し、収集データを収量向上等の課題解決に結びつけるために生産者が備えるべき4つの条件と指導のポイントは図のとおりです。
- 2 活用場面
収量向上等の課題解決に向けた生産者指導の際の活用を想定しています。
- 3 留意事項
本レポートの詳細については、報告書（別冊）を参照してください。

【条件と指導のポイント】

<p>【条件1】 技術・経営改善に対する強い意欲の醸成</p> <p>環境モニタリング等の新技術を導入し、効果を得るには、生産者が自ら考え行動し、経営の課題を改善しようとする強い意欲が必要です。その動機付けとして、小集団での定期学習会、相互巡回、先進事例研修等を行う際は、生産者の言動からモチベーション・関心事等を推定し、その時々々の生産者の意識・知識レベルに響くテーマ・内容で情報提供をし、意見交換を行います。特に、自ら行動しようという意欲が不足している生産者の場合、指導者主導で推進体制を構築し、学習の“場”を設定した上で、集団凝集性を高めるべく協議・振り返りをしながら進めるのが有効です。</p>
<p>【条件2】 植物生理・生産環境等に関わる基礎知識の習得</p> <p>環境データや作物の生育状況を生産改善に活かすためには、植物生理や光合成、生産環境等に関わる基礎的な知識を理解する必要があります。そのため、研究機関や外部専門家と連携しつつ、基礎知識を学ぶ学習会を何回か実施した上で、また、以下の応用的な取組と並行することで、知識の定着・理解を深めていきます。</p>
<p>【条件3】 応用的・実践的な技術・ノウハウの習得</p> <p>植物生理等の基礎知識を土台にしつつ、データ活用に関する実践的な知識・ノウハウの習得も必要です。これには、学習会や相互巡回等を通じ、データ閲覧の着眼点及び作物生育との関連性、今後の留意点等の情報提供を行うとともに、生産者同士のデータを比較し、違いは何か、次に何をすべきか等の議論を促します。これらにより、新たな気づき、小さな成功を経験させながら、経営改善に対するモチベーションを段階的に高めていき、順次、生産者が主体的に判断できるよう仕向けていきます。</p>
<p>【条件4】 マネジメントサイクルによる課題解決能力の習得</p> <p>生産者自身で現状把握、課題整理、目標設定、目標達成に向けた改善案の設定、実践を行い、振り返りができるように、課題解決能力を習得する必要があります。これには、ワークショップ等により、目標・改善案の設定、振り返り、軌道修正等を行うなど、実際にマネジメントサイクルを回していくことが有効です。また、課題解決に向けては、具体的な数値で現状把握する必要があり、環境データのほか、ハウス毎の収量・生育・病害虫発生状況や経営収支データの記録・分析が必要であり、取組を通じてその必要性を認識させ、順次、自主的に記録・収集するように仕向けていきます。</p>

注) 文字色は、■：生産者が備えるべき条件、■：指導手段、■：特に重要なポイントを示す。

図 生産者が備えるべき条件と指導のポイント

【令和5年度成果】施設園芸経営における環境モニタリングデータの活用条件と指導方策 (R5-指-21)